

令和6年度 小樽市立潮見台小学校 学力向上改善プラン

1 児童の実態

①前改善プランの定着目標の達成状況

・前改善プランでは国語、算数両教科において児童アンケート「国語(算数)を好き」と回答80%・学期末テストの正答率80%を定着目標として取り組んだ結果は以下の通りである。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
国語						
「好き」	69%	88%	85%	83%	65%	78%
テスト	91%	91%	88%	85%	90%	91%
算数						
「好き」	80%	85%	100%	63%	70%	68%
テスト	92%	91%	92%	83%	84%	80%

このような結果からテストではある程度できるが好きではないという傾向が見られ、児童が主体的に学習に向かえるような授業改善が求められる。

②全国学力・学習状況調査結果(結果)

- ・国語では、記述式回答での正答率が全国平均を大きく下回り、書くことに課題があると言える。回答の傾向を見ると、無回答は少なかったが理由を述べる問題において論理的に説明することができないなかったため、思考・判断・表現の力を高めていく必要がある。
- ・算数では、変化と関係の領域においての正答率が全国平均を下回り、課題と見られる。特に「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」問題では10ポイント以上下回っていることから表現することを位置づけた授業改善が必要である。

③標準学力調査

- ・どの学年においても「書くこと」の領域が伸び悩んでいる状態にある。指定された長さや条件に合わせて書く力を高めるために、国語科だけではなく、各教科で系統性を持って取り組んでいく必要がある。

④その他の検査

- ・上記のように学期末テストの結果については、両教科とも定着目標を上回っている。

⑤全国学力・学習状況調査結果(児童生徒質問紙)

- ・平日の家庭学習の時間についての項目で全国平均を下回っている。また、読書習慣についての項目でも課題が見られる。

⑥家庭生活及び学習の状況等

- ・前改善プランでは、毎日音読・家庭学習目標時間についての定着目標を設定し取り組んだ結果は以下の通りである。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
音読	100%	100%	95%	95%	95%	95%
家庭学習 目標時間	79%	76%	82%	56%	36%	75%

宿題としている音読では全学年で目標を達成し、家庭学習では目標時間の短い下学年はある程度達成している。高学年では宿題として多くの課題を出している学年については達成率が高くなっている。これらのことから、与えられた課題についてはしっかりと取り組めるが、自学などに進んで取り組むことには大きな課題があると考えられる。

2 学年ごとの定着目標(数値目標)

<国語科>

学年	定着目標
1年	・国語を「好き」と回答する児童80% ・国語の内容が「分かる」と回答する児童80% ・学期末テスト(読む・漢字・言語)80%
2年	・国語を「好き」と回答する児童80% ・国語の内容が「分かる」と回答する児童80% ・学期末テスト(読む・漢字・言語)80%
3年	・国語を「好き」と回答する児童80% ・国語の内容が「分かる」と回答する児童80% ・学期末テスト(読む・漢字・言語)80%
4年	・国語を「好き」と回答する児童80% ・国語の内容が「分かる」と回答する児童80% ・学期末テスト(読む・漢字・言語)80%
5年	・国語を「好き」と回答する児童80% ・国語の内容が「分かる」と回答する児童80% ・学期末テスト(読む・漢字・言語)80%
6年	・国語を「好き」と回答する児童80% ・国語の内容が「分かる」と回答する児童80% ・学期末テスト(読む・漢字・言語)80%

<算数科>

学年	定着目標
1年	・算数を「好き」と回答する児童80% ・算数の内容が「分かる」と回答する児童80% ・学期末テスト(知・技・思・判・表)80%
2年	・算数を「好き」と回答する児童80% ・算数の内容が「分かる」と回答する児童80% ・学期末テスト(知・技・思・判・表)80%
3年	・算数を「好き」と回答する児童80% ・算数の内容が「分かる」と回答する児童80% ・学期末テスト(知・技・思・判・表)80%
4年	・算数を「好き」と回答する児童80% ・算数の内容が「分かる」と回答する児童80% ・学期末テスト(知・技・思・判・表)80%
5年	・算数を「好き」と回答する児童80% ・算数の内容が「分かる」と回答する児童80% ・学期末テスト(知・技・思・判・表)80%
6年	・算数を「好き」と回答する児童80% ・算数の内容が「分かる」と回答する児童80% ・学期末テスト(知・技・思・判・表)80%

<学習・生活習慣(家庭学習等)>

学年	定着目標
1年	・家庭学習時間 学年×10+10分 90% ・自分で取り組む内容を決めて学習することができる」と回答する児童80%
2年	・家庭学習時間 学年×10+10分 85% ・自分で取り組む内容を決めて学習することができる」と回答する児童80%
3年	・家庭学習時間 学年×10+10分 80% ・自分で取り組む内容を決めて学習することができる」と回答する児童80%
4年	・家庭学習時間 学年×10+10分 75% ・自分で取り組む内容を決めて学習することができる」と回答する児童80%
5年	・家庭学習時間 学年×10+10分 75% ・自分で取り組む内容を決めて学習することができる」と回答する児童80%
6年	・家庭学習時間 学年×10+10分 75% ・自分で取り組む内容を決めて学習することができる」と回答する児童80%

3 目標を達成するための具体的な方策

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①基礎基本の確実な定着を図り、児童に「わかる」「できる」という自己肯定感を味あわせるための授業改善を行う。
- ②朝活動・放課後学習「学びたいム」を活用し、補充学習を行う。
- ③授業に臨む「学習のやくそく」の定着を目指した指導を発達段階に応じて取り入れる。
- ④伝え合うスキルを高めるために、条件や設定に応じて表現する場を各教科や特別活動において位置づける。

(2) 確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①「子どもが考える、伝え合う授業」づくりを基本とした校内研究を全学級で取り組むことで、系統的に指導していく。
- ②すべての授業で子ども達同士の学び合い(交流)を取り入れた授業を構築する。
- ③学び方や解決方法、表現方法を選択したり、自己決定したりする場を授業に取り入れることで個別最適な学びの実現を目指す。
- ④「やってみたい!」「もっとやりたい!」という思いが持てるような単位時間や単元の構成を工夫することで、学ぶ楽しさを感じられるようにする。

(3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①年度始めに「潮小の家庭学習について」を配付し、取り組み方やねらいについて共有した上で、一年間を通して家庭への啓発をしていく。
- ②自主的に取り組む力を高められるよう、自学ノートの取組を推奨し、模範となるノートの紹介や家庭学習ノート貯金をすることで意欲的に取り組めるようにする。
- ③「早寝・早起き・朝ご飯」の取組やテレビ等のメディアに触れる時間に関する家庭への啓発を随時行い、生活活用リズムシートの活用を推進する。

(4) その他

- ①ゲストティーチャーによる授業など、生き生きとした学習が展開されるよう指導計画に位置づけ、実践する。
- ②地域の特色を生かした授業を積極的に取り入れる。

4 実施計画

年月日	計 画 内 容
R 6年	
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの(前年度等)全国学力・学習状況調査の調査問題・チャレンジテストの実施 ○R 6全国学力・学習状況調査の実施 ○全国学力・学習状況調査 自己採点
	○標準学力調査実施(第3・4・5学年)
5月	・学級経営計画の作成・交流
6月	○標準学力調査結果分析
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートの実施 ・保護者アンケートの実施 ・チャレンジテスト(1学期末問題)の実施 ・定着確認学期末テストの実施

8月	・学級経営反省と2学期の重点課題の交流
9月	○R 6全国学力・学習状況調査結果分析
10月	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者への調査結果の説明 ○学力向上改善プランの評価・改善 ※全学級による研究授業を通年実施
11月	・児童アンケートの実施
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの実施 ・職員自己評価の実施 ・チャレンジテスト(2学期末問題)の実施 ・定着確認学期末テストの実施 ・これまでの(前年度等)全国学力・学習状況調査の調査問題の実施
R 7年	
1月	・学級経営反省と3学期の重点課題の交流
2月	・学力向上検討委員会「確認テスト」の実施
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・学級経営反省及び次年度への引き継ぎ ○新学力向上改善プランの作成

5 評価方法

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①自己評価・児童アンケート等
- ②標準学力検査・チャレンジテスト・定着確認テスト 等
- ③自己評価・学級経営交流・児童交流・研究授業事後検討 等
- ④自己評価・チャレンジテスト・定着確認テスト 等

(2) 授業改善を図る校内研修の取組

- ①全学級の授業公開と外部からの助言・評価
- ②授業交流・研修による交流
- ③授業交流・研修による交流
- ④自己評価・児童アンケート・研修による交流 等

(3) 望ましい学習習慣・生活習慣を形成する取組

- ①保護者アンケート・児童アンケート
- ②研修による交流・家庭学習貯金・自己評価
- ③生活活用リズムチェックシート

(4) その他

- ①②自己評価・教育課程委員会での意見交換・学校運営協議会での意見交換 等